



教育実習生の先輩から学ぼう！

5月27日から、群馬県立女子大学文学部国文学科4年生の**石田悠華**先生が教育実習生として来校しています。石田先生は、普通科アドバンスコース1期生として、**初めて国公立大学に合格**し、国語の教員になるために、今も努力を続けています。石田先生の高校時代の経験は、大学志望者はもちろん、もっと**勉強を頑張りたい**、**高校生活を充実させたい**と考えている皆さんにとって、きっと参考になるはずです。今回は、石田先生が5月28日に3年1組で話してくれた内容を抜粋してお届けします。



●利根商で頑張ったこと

①オン・オフの切り替え

四六時中ダラダラと勉強し続けるのではなく、球技大会やマラソン大会、修学旅行などの**イベントでは友人たちと全力で楽しんだ**。一方、授業中や定期テスト前、朝など**集中できる時間には、しっかり勉強した**。

②頻繁に教員とコミュニケーションをとる

放課後はほぼ毎日職員室に通い、担任や教科担当の先生、さらに校長先生に添削問題をもらったり、面接対策や悩み相談に乗ってもらったりしていた。



●勉強のコツ

好きな教科は2時間勉強して15分休憩し、苦手な教科は30分勉強して5分休憩した。休憩時間は、音楽鑑賞やゲームをすること、動画視聴など、勉強のご褒美になる好きなことをした。また、好きな教科と苦手な教科を交互に勉強した。さらに、静かな環境だとかえって勉強がはかどらなかったので、勉強中は小音量で音楽やテレビ番組を流したり、ファミレスで勉強したりした。以上のように、**自分の得意不得意、性格などに応じて勉強時間や休憩時間、勉強順、学習環境などを工夫した**。

そして、特に苦手な教科については、授業に取り組む態度を改善し、先生方を頼った。黒板に書かれたことは最低限ノートなどに写し、**授業中に分からなかったことはそのままにせず**必ず先生に質問した。また、担任の先生が「大学入試に役立つ」と勧めてきたので、英語は苦手だったが**英検に挑戦**するなど、先生方のアドバイスは真摯に受け止めた。

●大学入試に向けて

①本格的な受験勉強の開始時期

定期テスト前などは真剣に勉強していたが、それ以外は課題と授業の復習程度であった。茶道部を引退して、3年生の夏休みに**学習合宿に行ってから受験モードに切り替わった**。

②小論文対策

普段の国語の授業においては、様々な文章に触れ、**表現のバリエーションを増やした**。また、どんなに稚拙でも**自分の言葉で自分の意見を書く**よう努めた。実際に小論文を書くに当たっては、**様々な問題に触れ、先生方に添削してもらう**中で、小論文の「型」を身につけていった。

③面接対策

志望大学について情報収集し、予め**問答集**を作成した。その上で、**多くの先生方と模擬面接**を行ったり、**友人同士で面接練習**を行った。本番では、緊張して上手く受け答えはできなかったが、「この大学に入りたい!」という、**熱意や真剣さが伝われば合格できる**と思う。